

その他の装置、設備を起因物とする墜落・転落の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
2000	10	15 ～ 16	円筒形ベルトコンベアー(長さ約33.5m、径約1.95m)を移動式クレーン2台で吊り、骨材コルゲートサイロの中央上部に据え付ける作業中に、約12m離れたところにある荷締材レバースタックを取りに幅約50cmの歩廊を移動したときに歩廊から約8.5m下の地面に墜落した。	30302	1～9
2000	7	15 ～ 16	鋼線の酸洗場において、表面処理促進剤の入っているポリタンク(20?)のキャップを約1.3メートル下の床面に落としたので飛び降りて拾い、再び作業床に戻るため隣接している水槽の端部に足を掛けた登り始めたときに、バランスを崩し墜落した。	11209	10～29
2000	8	11 ～ 12	エレベーターの非常止め装置の試験のため、落下試験装置の下部搬器作業台で試験準備をしていたところ、落下試験装置の上部吊上げ部と下部搬器との連結部が外れたため、下部搬器が昇降路内を落下し、高さ約100メートル下の基礎ピットに激突した。	11301	1000～9999
2000	12	10 ～ 11	28階のエレベーターシャフト開口部に仮設の止水用スラブを設けるため、モルタルをクレーンで吊ったホッパーから流し込んでいたところホッパーのバルブが閉まらず中のモルタル(2?)がデッキプレート上に一時に流れ出し、荷重に耐え切れずにデッキプレートが崩壊してデッキプレート上にいた作業員が27、26階の開口部養生用の足場板を突き破って25階スラブまで約10m墜落した。	30201	10～29
2000	6	18 ～ 19	倉庫内において、冷蔵庫及び冷凍庫の上に付着したハトの糞を取り除くため、冷蔵庫の上に登り(高さ2.45m)バールで糞を除去しているときに墜落した。	80209	10～29
		14	倉庫内商品の棚卸しを終え、棚(高さ：1.4m、幅：1.1m)の上で粘着紙ラ		10～

2001	2	～ 15	ベルロール(質量：65kg)を整理するため、ロールを転がして棚からフォークリフトのパレット上に積み込もうとしたときに棚から墜落した。	40301	29
2001	1	7 ～ 8	フロント横の仮眠室で起床し業務の引継ぎのために身支度を整えていたところ、2段ベッドの上段に忘れ物をしたため梯子を昇ろうとして足を踏み外し転落した。	140101	30～ 49
2001	5	～ 17	舞台の吊り物である側面反射板(高さ6m)を吊っているワイヤーロープ2本を取替えるため、反射板の骨組みである鉄骨梁に足をかけてワイヤーを取外しているときに約5.5m下の床に墜落した。	30309	1～9
2002	4	16 ～ 17	古紙再生用のサイロ（直径3.5m、高さ約9mの円筒状）へ古紙を溶かした水を供給するための水路（幅3m、高さ1.34mの角型ダクト状パイプ）の上面に直径60cmのマンホールを造るため、水路の中で溶接していてサイロの中へ7.7mの高さから墜落した。	30302	10～ 29
2002	6	7 ～ 8	アスファルト再生プラントにおいて生産開始前の点検作業を行っていたところ、二次破砕ホッパーの下部排出口の詰まりを発見したので長さ2mの鋼管を持ってホッパー内に入ったときに、突然、足元の内容物（アスファルトを砕いたもの）が崩れホッパー内で生き埋めになった。	150102	1～9
2002	6	11 ～ 12	トラックに使用した防水シートを乾かすため、倉庫内の棚（高さ3m）に昇って作業中に墜落した。	80209	1～9
2002	10	14 ～ 15	マンション屋上の手すりにロープを結び窓拭き用ブランコを用いて窓拭き作業中、手すりに結んでいたロープがほどけて高さ約16.05mのところから墜落した。	150101	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	冷却庫修理のため冷却庫の上に登り、スパイラルネット（ゆで麺を冷却するための螺旋状のコンベア）の補修作業中に、4.9m下のコンクリート床に転落した。	11301	10～ 29
2002	12	13 ～	ゲームセンターの2階からゲーム機を搬出しているときに、雨が降っていたため足を滑らせて転落した。	40301	10～ 29

		14			
2003	3	11 ～ 12	バッチ炉のフード取付け作業で、2名の作業員が水平バランスを調整するた めフードの上に乗りターンパックルを調整していたところ、屋根の梁（みぞ 型鋼）にボルト止めしたつり具の1本が上端部より外れてフードが傾き、2名 がコンクリート床面に落下したが、その直後に残りの3本のつり具も外れて フードが落下し、一名の頭部を直撃した。	30302	1～9
2003	3	16 ～ 17	配管の断熱材の取付作業中に、約5m下の床上に墜落した。	30302	1～9
2003	6	16 ～ 17	もろみ中継タンクの洗浄作業を行う前に、タンク内をのぞいたときに深さ 3.4mのタンク内に墜落し、残留していたもろみを吸入して窒息死した。	10105	50～ 99
2003	10	16 ～ 17	工場の配送センター改修工事において、鋼鉄製の自動ラックの枠に乗って ラックの解体作業中に自分が乗っているラックのボルトを外したため、ラッ クが壊れて約3m下に転落した。	30203	30～ 49
2004	1	10 ～ 11	特殊焼却施設内にある消石灰タンクが詰まり焼却運転中に頻繁に閉塞するた め、タンクの消石灰を全て抜き取るためにタンク内部に入り、固まった消石 灰を棒で押していたところ、消石灰に埋没した。	150102	50～ 99
2004	4	13 ～ 14	かばん縫製作業中に材料を天井に引っ掛けるため、ミシンの台の上に乗った ところ、滑って床に転落した。	10807	10～ 29
2004	8	14 ～ 15	ビルの消防検査に立ち会っていた被災者が、8階のベランダに設置された避 難器具（体にベルトを装着して地上にゆっくりと下降する緩降機と呼ばれる もの）の下降試験をするため、ベルトを装着してベランダの外に身を乗り出 したところ、1階のコンクリート屋根上に転落した。	150101	10～ 29
		21	油圧伸縮作業台を使用して天井付近にあるバー（鉄パイプ）にカーテンを取 り付ける作業で、1つ目のカーテンを取り付け後、油圧伸縮作業台に被災者		30～

2004	2	～ 22	が乗ったまま、別の作業者が油圧伸縮作業台を人力で移動させたところ、車輪がダンスパネル（厚さ2.5cm）に乗り上げて油圧伸縮作業台が転倒し、作業台上にいた被災者が、3.65m下の床に墜落した。	140101	49
2004	11	13 ～ 14	廃品ダンボール箱回収用の金網かご（1.7×1.7×高さ1.8m）が一杯になったので、かごの中のダンボール（全て解体済み）の上に上がり、体重でダンボールを圧縮しようとしたところ、かごの外の地上に墜落し、隣の整理棚に激突した。	11502	10～ 29
2004	7	19 ～ 20	製品置場にて高さ約6mの既設の塩ビ管の上から電気配線中継ボックスの蓋を閉めようとしていた被災者が、足を滑らせ墜落した。	30301	1～9
2005	11	15 ～ 16	歯車製造工程の熱処理工程において使用する温水洗浄機のメンテナンス作業中、70℃の湯が溜まっていた洗浄機内部に転落した。	11209	100 ～ 299
2005	7	17 ～ 18	フォークリフトを使用して産業廃棄物を強酸が満たされたピット（水深1.2m）に投入する作業中、被災者がフォークリフトから降りたところピット内に転落した。	150102	1～9
2005	3	14 ～ 15	サイロの塗装工事において、旧塗装のケレン作業をブランコを使用して行っていたところサイロの下に転落した。	30209	1～9
2005	2	10 ～ 11	架設ガーダー上に載せた橋桁を橋台に架設する作業中、架設用設備が倒れ、門構梁上の台車でジャッキ操作を行っていた被災者が地面に放り出された。	30105	30～ 49
2005	2	9 ～ 10	電気集じん機の上部配管の保温材の補修のため、当該集じん機のFRP製の天板の上に乗ったところ、これを踏み抜き、1.5m下の電極板のつり枠の上に墜落した。	30309	1～9
2006	2	16 ～	4階建マンションの防水工事を、被災者は4階ベランダで、もう一人の作業員は屋上で作業をしていたところ、4階ベランダの物置が倒れる音がしたの	30201	10～

		17	で、屋上の作業員が確認したところ、１３．３７m下の隣地住宅の庭に被災者が墜落していた。		29
2006	6	14 ～ 15	シールド工事現場において、シールド工事で排出された汚泥を処理する地上の処理棟内で、被災者は雑排水槽の上部にある鉄板（大きさ６０センチ×９６センチ、高さ（床から２０５センチ、水槽底から１９７センチ））上で、排水パイプの盛替作業を行っていたところ、雑排水槽（事故当時は水深１メートル）の中に転落した。	30102	1～9
2006	8	14 ～ 15	マンション代行管理の勤務についていた被災者が、機械式駐車場のチェーンが外れたピットの下に墜落しているところを発見された。	80409	1000 ～ 9999
2006	12	6 ～ 7	ハシゴリフトに昇り、天井に取り付けてある換気扇の清掃作業をしていたところ、４．１５mの作業床から墜落した。	150101	10～ 29
2007	8	13 ～ 14	被災者がゴルフ場のホールの芝生を刈るために、敷地内の下り坂道路（幅員８m）を自走式芝刈機で移動していたところ、直角カーブを直進して柵を突き破り、約２０m下の道路に芝刈機ごと転落した。同僚作業員が道路上に放置されている芝刈機と崖の中腹に引っかかっている被災者を見つけた。	140301	30～ 49
2007	2	16 ～ 17	被災者は、廃棄物である紙パッキンの塊を機械で自動的にコンテナボックスへ排出する機械の排出口側に紙パッキンが詰まっていたために、長さ約１．８mの木製の棒状の先に三角形の金属片が付いた用具を使ってかき出そうと、コンテナボックスの上（ふち）に載って作業をしていたところ、足を滑らせて約１．５３m下のコンクリート地面へ墜落した。	11709	100 ～ 299
2008	6	15 ～ 16	マンション新築工事の仮設引込線設置工事のため、現場前の電柱に登り、高さ７mの足場ボルトに足をかけ金具を入れた布袋を地上からつり上げようとした際に墜落した。	30203	1～9
2008	9	14 ～	被災者が本船から砂糖の原糖を投入するホッパーの目づまりの清掃をする際、ホッパー手すりの中側に足を掛けてホッパー内に入ろうとしたところ、手すりの外側約３．６７m下の岸壁に墜落した。さらに、そのはずみで岸壁に取	50202	1～9

		15	り付けられている船のゴムバッファ（緩衝材）上に転落した。		
2008	12	10 ～ 11	被災者が同僚2人とバケットエレベーター（使用済の鋳物砂などをバケットで搬送する）の駆動部分のギア等の取替作業を行っていた。ギアに付着しているオイルなどでプーリーヌキ（ギアを固定して外す工具）が滑るため、被災者が手すりと近くの排気ダクトに足をかけて、バールでプーリーヌキを固定していたところ、地面に転落し死亡した。駆動ギア付近が非常に狭いため手すりの外に出て、バールで固定していた。	11002	30～ 49
2009	9	16 ～ 17	夕方になり、被災者が見当たらないので捜していたところ、骨材ストックヤードの中の砂をためておくサイロ内の砂の中で窒息していた。同サイロ内でスコップが発見され、同サイロ内のすり鉢状に固まっている砂をスコップで崩す作業をしていた。	10901	30～ 49
2009	1	14 ～ 15	中華料理店の厨房において、換気扇の掃除をしようと高さ72cmのガス台に左足をかけたところ、転落し身体をガス台にぶつけ、そのまま仰向けにコンクリートの床上に倒れた。被災者は午後5時ころ帰宅。翌朝自宅で具合が悪くなり、救急車で搬送されたが、同日死亡した。	140201	1～9
2009	2	11 ～ 12	事業場敷地内にある整備工場において、資材置き場として使用している3段積みラックの3段目に整備作業に使用する不凍液などを片付ける作業を行っていた。3段目床の位置までフォークリフトを使用して荷を持ち上げ、移動はしごで3段目の作業床もしくはパレット位置（高さ3.5m）まで登って作業を行っていたところ、地上コンクリート床に墜落した。	40301	50～ 99
2009	11	16 ～ 17	土砂をふるい分ける設備の補修作業を行うため、高さ3mのふるい分け機の傾斜部に被災者が上り、ドラグ・ショベルでつり上げた約90kgの鋼材を手で受け取る際バランスを失い転落した。作業場所は、転落防止用としてトラクター・ショベルを据えていたが、作業足場の設置等の墜落防止措置が行われていなかったため、トラクター・ショベル設置外へ転落し被災した。	30199	10～ 29
		1	チェスト（古紙原料タンク、約5m×約10m、深さ約4m）の開口部（約1m×約1m）からオーバーフローが発生したため、溢れた原料を当該開口		100

2010	1	～ 2	部に入れる作業を行うため、開口部左側に敷いていたコンパネ板（0. 3 m × 1. 4 m）を外し、中央部に敷いていた杉板（0. 2 4 m × 2 m）を渡っていたところ、転落防止措置がなく転落したとみられる。チェスト内部のスクリーに巻き込まれた状態で発見された。死因は溺死。	10601	～ 299
2010	3	10 ～ 11	工場機械室内に設置してあるの冷房加湿器（繊維材料を加湿する設備、幅 3 1 0、高さ 3 0 0、奥行 2 1 0 c m）を解体する作業中、脚立などを使用せずに、1. 7 mの高さにある機械フランジ部と建屋内壁に足を掛けて、無理な体勢でネジを外す工程を行っていた際に、足を滑らせて足を掛けていたフランジに前頭部を打ち、更に床面に後頭部を打ちつけ、頭部強打により死亡した。	10309	1～9
2010	5	～ 17	工場内に設置されている高さ約 7 mの塗装ブース天井において清掃作業中、設備間の隙間を埋めるために取り付けられた鉄板を踏み抜き、地上へ落下し死亡した。	11403	100 ～ 299
2010	8	9 ～ 10	貯蔵しているフライアッシュのサイロからの出が悪くなった。その原因となったサイロ壁面に付着したフライアッシュを落とすためにサイロ上部のハッチからサイロ内部に設置されている垂直タラップを降りたところ、転落してフライアッシュ内に埋没し、死亡した。	10909	30～ 49
2010	11	0 ～ 1	製紙工場の夜勤（4直3交替勤務）に従事していた被災労働者が、担当していた部署（工場2階、ドライヤ、枠替え担当）からいなくなったので、同僚労働者等が工場内を捜索したところ、約2時間後、1階パルパー（深さ約2 mの廃紙溶解用の槽）内にて発見され、死亡が確認された。パルパーのメンテナンス用扉が開いていたことから、ここからパルパー内に転落したとみられる。	10601	100 ～ 299
2010	12	～ 14	被災者は、フォークリフトでコンテナの上で畳を積む作業を行っていたところ、コンテナから1. 1 2 m下の地上へ後ろ向きに墜落し、入院治療を続けていたが、約2週間後に死亡した。	170209	30～ 49
			23：35分頃、高さ9 m、直径2. 6 mの液体糖質貯蔵タンク内（当日貯蔵率70%）に落下している被災者を、班長が発見した。ただちに119番		

2011	1	22 ～ 23	通報がなされ、レスキュー隊による救出が行なわれたが、0：45分死亡が確認された（窒息死）。単独作業であるため目撃者はいないが、付近の状況から、同タンク上部のマンホールのふたを開け、粉末糖質を、投入しようとしていた時、同マンホールから誤って落下したものと推定される。	10109	100 ～ 299
2011	6	12 ～ 13	昼休憩（12時～13時）を終えて、産業廃棄物の圧縮梱包ラインによる作業を再開しようとした労働者が、共同作業である被災者の姿が見えないことに気づき、他の労働者と共に探したところ、圧縮機のシュート付近（1階）の廃棄物の中に埋もれた状態となっている被災者を発見した。死因は窒息による。	150102	50～ 99
2012	12	12 ～ 13	建屋集塵機の清掃の際、被災者は集合ダクト内の粉じん堆積状況を確認するため当該ダクト内に入り確認していたところ、集合ダクトから繋がる垂直ダクト（高さ約15m）の開口部から墜落した。	150102	10～ 29
2012	4	13 ～ 14	被災者は生徒とインストラクターの2人乗りパラグライダーの離陸補助をしていたところ、被災者の片腕がパラグライダーのハーネスに引っ掛かった状態で離陸し、被災者が数十m上空から山中へ墜落した。	120109	1～9
2012	8	11 ～ 12	倉庫において、被災者は同業者からの注文品を探すため、フォークリフトの昇降機能を利用して高さ3.8mの移動式のスチール棚の最上部に至り、同所の在庫品から注文品を見つけようとしたものの見つけれず、再びフォークリフトで地上に引き返そうと同僚に声を掛けて合図した。合図を受けた同僚がフォークリフトの進入路を確保するためスチール棚を移動させたところ、棚と棚との間に生じた開口部から被災者が転落した。	10209	50～ 99
2013	1	8 ～ 9	被災者は、業務用冷凍庫（高さ256cm）の上に乗し、キャスター付きラック（重さ20kg）を、冷凍庫の上に引き上げた後、冷凍庫の上を整理していたところ、何らかの原因でコンクリート床に墜落した。	80109	1～9
2013	6	11 ～ 12	被災者は、合材工場内の木質バイオマスコージェネレーション施設において、空気予熱器内の定期清掃作業中、高さ約13メートルの点検口から予熱器底部に墜落した。尚、4器の空気予熱器のうち3器は煙管上での清掃作業	10804	10～ 29

			であったが、墜落した１器は構造上煙管がないタイプであった。		
2013	12	14 ～ 15	浄水場の設備調査のため、汚泥攪拌槽（３ｍ×５ｍ×Ｈ２．６ｍ）の上で２名で写真を撮影しており、写真を撮り終わり槽の上を歩き、被災者が木製の蓋に乗ったところ、蓋がたわみ汚泥の溜まった槽内に落ちて死亡した。尚、槽の上部には鋼製の蓋が３つ設置されていたが、うち１つはサンプリング調査のため木製の蓋が設置されていた。	170209	1～9
2013	10	15 ～ 16	鉄粉及び鉄くずを入れるホッパーが詰まり、排出口から出ないため、詰まりの除去作業を行っていたところ、誤って転落し鉄粉に埋まった。	11301	100 ～ 299
2013	8	11 ～ 12	被災者と同僚労働者の２名が、顧客先へ出張し、固液分離装置（豚の排泄物を脱水し、固体と液体に分離する機械）の修理作業を行っていたところ、固液分離装置の近くにある浄化槽（深さ３．９ｍ）に被災者が転落した。尚、浄化槽には汚水（豚の排泄物）が深さ３．６ｍ溜まっていたため、被災者は溺れて窒息死した。	11301	10～ 29
2014	12	10 ～ 11	調理台の上にて、上方にある棚の清掃作業中、墜落し、コンロ台で背部を打ちつけ、死亡した。	80209	1～9
2014	11	10 ～ 11	鋼片工場にて、柱間の歩廊を張り替える工事中、朝に被災者が柱根元付近に立っているのが数度同僚に目撃されていたが、午前休憩に入る際、柱付近に設置してある設備の隙間でうずくまっている被災者が発見された。	30309	1～9
2014	8	18 ～ 19	ハンドリング装置でハッチカバーの自動溶接作業の片付け作業中、ハンドリング装置の上部から３．５ｍ下に墜落し、死亡した。	11301	10～ 29
2014	6	20 ～ 21	機械室の精製水タンクに設けられた梯子の側柱と、最上段の横さんに、携帯電話用ストラップを掛け、被災者が梯子を背に首を吊った状態で発見された。	10803	50～ 99
			残コンクリートの処理機（トロンメル分級機）内部の清掃作業中、処理機の		

2014	5	16 ～ 17	カバート板を元に戻すため、トラクターショベルのバケットで天板を持ち上げた際、天板が傾いたため、被災者は、片足を処理機の中段付近にある角パイプに掛け、反対の足をショベルのバケットに掛け、天板の傾きを直そうとしたところ、バランスを崩し、2.45メートル下のコンクリート床に墜落した。	10901	10～ 29
2014	3	21 ～ 22	アスファルト合材プラントにて、被災者は同僚と2人で手すり（高さ1.1m）付きの点検歩道（幅58cm）上で、100トンサイロの上部にある自動運転時の停止位置を決めるリミットスイッチの調整作業を行っていたところ、体勢を崩して高さ15メートルから地上に墜落した。	10909	10～ 29
2014	3	12 ～ 13	被災者は、照明等を吊るために設置する支柱を組立て作業中、支柱の8段目（高さ約15m）で移動しようと、支柱に架け渡してあった足場板に足をのせたところ、足場板が滑動し、墜落した。	100109	30～ 49
2015	8	5 ～ 6	被災者は、トラクターショベルを運転して鉄粉等の原材料をホッパーへ投入する作業を行っていたが、何らかの異常事態があり、鉄粉の配合槽上部へ上り墜落防止用手すり（高さ1.1メートル、中さん2段、金網張り）の内側（開口部側）へ入ったところ、開口部から配合槽の中へ墜落した。配合槽内部に堆積していた鉄粉までの高さは約4.9メートルであった。被災者は安全帯を着用していなかった。	11001	100 ～ 299
2015	4	16 ～ 17	取引先工場への出張メンテナンス作業中、大型射出成型機の配管補修作業において、当該配管の締め付け時に工具が外れてバランスを崩し、コンクリート床面まで墜落（高さ5.16m）したものの。	80209	1～9
2015	7	0 ～ 1	被災者は、午後2時半頃、当日の生コン打設が終了したので、一人で生コン原料を混練するミキサー及び生コン打設機を洗浄ガンにて洗浄していた際、生コン打設機のホッパー部（縦横146cm、深さ150cm）に転落し、左足をホッパー底部の送出スクリー（長さ約100cm、径26cm）に巻き込まれた。救出に約4時間かかり、被災者は救急搬送されたが出血多量で死亡した。	10901	10～ 29
			作業員2名がボックスカルバートの型枠の外側に取り付けられた足場の上		

2015	6	7 ～ 8	で、当該型枠の脱型作業中、型枠を固定していたボルトを外したため、当該型枠が倒れ、足場上で作業をしていた2名が型枠とともに地面に墜落、1名が死亡、1名が負傷した。	10909	10～ 29
2016	6	9 ～ 10	貯水槽の点検・清掃作業準備の為、貯水槽の上に上がっていた労働者が高さ約5メートル下の地面に墜落した。被災者は病院へ搬送された後、死亡した。	150101	～ 499
2016	1	10 ～ 11	塗装補修用の単管足場の設置作業に従事していた労働者が、足場鋼管パイプ用のクランプを取り付けるため、500A配管の上を安全帯を使用することなく移動していたところ、足を踏み外し、10m下の地面に墜落し、死亡した。	30209	1～9
2017	8	16 ～ 17	天井クレーン（ごみクレーン）の部材を溶接していたところ、火花が当該クレーンのバケット上部に堆積していたゴミに引火した。周囲にいた労働者が消火したが、当該クレーンのガータ上で作業していた被災者が約8メートル下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	30309	30～ 49
2018	9	0 ～ 1	地下駐車場で駐車装置の点検中、機械操作者が、被災者の乗ったパレットを最上部へ上昇移動させた。被災者はパレットに乗ったまま点検作業を行い、その位置での作業が終了したため、機械操作者が被災者の乗ったパレットを下降させようと操作したところ、パレットごと被災者が地下の地面へ墜落したものの。	170209	10～ 29
2018	6	16 ～ 17	加工室内ラインのトンネルフリーザー（蒸した蒲鉾を冷却する装置）傍の通路にて、頭部から出血し倒れている被災者が発見されたもの（倒れた際の現認者なし。）。救急搬送され療養していたが、後日死亡した。	10102	300 ～ 499
2018	1	12 ～ 13	貯酒タンク撤去工事において、貯酒タンク（地上からの高さ約20m）の上部（鏡部）を解体後、胴部分（φ6.8m）を上方から約5mの箇所、円周方向を12分割してガス溶断して地上に降ろす作業にて、分割した胴板10枚撤去後、自立していた2枚の胴板がタンク内側に倒れ、倒れたタンク胴板に安全帯を掛けていた被災者が胴板とともにタンク内に墜落した。被災者	30209	1～9

			は足場解体のため足場上（高さ 17 m）で待機していたもの。		
2019	12	14 ～ 16	資材プラントの焼土施設の一部である砂利を振るい分ける機械（振分機械）に砂利を投入するベルトコンベアーが不調であったので、その修理のために高さ 2 メートル以上の作業床及びその周囲において、ベルトコンベアーのモーターを取り外そうと、モーターの取付部及びその周辺の部品を分解する作業を行っていたところ、地上まで墜落した。	40302	10～ 29
2019	9	18 ～ 20	被災者が、ゴルフ場内の道路上にて、芝刈り機を運転中、段差下に転落し、芝刈り機の下敷きになったもの。	140301	50～ 99
2019	4	8 ～ 10	ごみ処理施設内の設備の定期整備工事において、漏斗状のダクトに詰まった灰を下に落とそうとして、被災者が詰まった灰の上に乗って、鉄の棒で突いたところ、灰が崩れて埋没し、約 5 分後に救出し病院に搬送されたものの死亡した。	30309	1～9
2019	3	20 ～ 22	銅を精錬する炉へ炭酸カルシウムを吹き込むホースを取替作業後、供給側のホースの接続部が外れ、炭酸カルシウムが吹き出し、付近全体が真っ白になったあと、ホースをつり上げていたロープ付近の煙道用配管（径 60 cm）にいた被災者が当該配管上から約 5 m の下の箇所へ墜落した。	11101	1000 ～ 9999
2020	2	14 ～ 16	トラックを運転し上記発生場所に入庫したドライバーが、上記発生場所の倉庫内で血を流し倒れているところを発見されたもの。災害発生状況から、被災者は積み込む荷を確認するため、荷の上に登り、転落した。	40301	10～ 29
2020	1	8 ～ 10	被災者は、他の労働者 2 名とともに、集塵機上の清掃及び足場の設置・解体の作業を行っていた。被災者と同僚 1 名の 2 名で 7 階レベルのマンホールから集塵機内に入場し 集塵機の梁材上に設置した足場板や単管を一旦全て撤去し、次の作業を行うため、梁材の上で同僚 1 名と一緒に待機していた時、被災者は 4 階レベルの集塵機の屈曲部まで約 17 m 墜落したものの。	30209	1～9

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html